児童養護施設
愛泉寮
木村 康平副施設長

児童養護施設
ふれんど
武藤 裕之施設長

児童養護施設
ケヤキホーム
松村 二郎施設長

埼玉県児童福祉施設協議会会長
児童養護施設　あゆみ学園
丑久保 恒行施設長

巻頭特集

児童虐待防止に尽力する人々の願い

子どもたちの未来を社会全体で守るために

毎年11月は、児童虐待防止推進月間です。虐待を受けて保護された子どもたちの心に寄り添う、羽生市、加須市、行田市内の児童養護施設の代表に、地域の現状と課題を聞きました。

児童虐待通告が増え続ける埼玉県の現状と取り組み

埼玉県福祉部こども安全課児童虐待対策担当の発表によると、令和元年度における県内の児童虐待相談対応件数は、1747件。平成22年度の3493件と比べると、10年間で約5倍もの相談件数が増えました。

「今年は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、外出自粛や学校の休校が続きました。家の中で過ごす機会が増えたせいか、児童虐待相談対応件数は過去最多になっています」。そう話すのは、埼玉県児童福祉施設協議会会長を務める、あゆみ学園の施設長、丑久保恒行（うしくぼ）さん。各児童養護施設には、保護された子どもの一時預かり要請が、毎月10人以上も寄せられているといいます。

児童虐待の内容は主に、子どもの前で家族に暴力を振るうドメスティックバイオレンス（DV）などの心理的虐待、身体的虐待、育児放棄（ネグレクト）、性的虐待の4種類。しかし、虐待を受けている子どもを取り巻く環境は、複雑な背景が絡み合っており、一概に分類できません。

「成長期に虐待を受けると脳や体の成長の遅れや、人格形成への悪影響につながると言われています」と、ふれんどの施設長、武藤裕之さん。暴言を受け続けると聴覚の発達障害につながったり、家庭内暴力におびえて育った子どもは自己防衛のため、暴力的なシーンを見ても、そこに自分の意思を持たなくなるそうです。

こうした問題を改善しようと平成30年、埼玉県は全国初の「埼玉県虐待禁止条例」を施行。児童相談所の職員を増員し、警察との情報交換や、市民へ協力を呼び掛けるなど、虐待防止に向けて、さまざまな対策を行っています。

「心と体が傷ついた子どもたちの今」

児童虐待の原因は、望まない出産や、地域社会からの孤立、低所得、親自身の虐待経験など、多種多様な要因があります。「誰にも助けを求められないなか、追い詰められた保護者は虐待に走ってしまうのかもしれません」とケヤキホームの施設長、松村二郎さんは分析します。それでは、虐待が発覚した子どもたちは、どのような経過をたどるのでしょう。

虐待に関する通告で緊急を有する場合、児童相談所は、一時保護という措置を取ります。しかし、虐待を受けた疑いのある子どもが増え続けるなか、児童相談所の一時保護所だけでは、受け入れられません。そこで、里親や児童養護施設が代わりに、保護を引き受けているのが現状です。

一時保護の期間は原則、2カ月を超えてはならないと決められています。その期間を過ぎても、保護者のもとに帰れない場合は、児童養護施設や乳児院に入所。新しい暮らしが始まります。

「入所してきたばかりの頃は、環境に馴染むためにもいい子を演じている子どもが多いです」と、愛泉寮の副施設長、木村康平さんは話します。劣悪な環境で育った子どもの多くは、自尊感情が低く、自己肯定感を抱きにくいもの。少しずつ施設の生活に慣れ、安心できる場所だと納得すると、甘えや依存欲求などの試し行動が現れるのだそうです。

現在、虐待が理由で児童養護施設に入所する子どもは、全体の5割以上を占めています。今もなお、身近な場所で子どもたちが誰かの助けを待っているかもしれません。

虐待を未然に防ぎ負の連鎖を断ち切るために

児童虐待通告の増えた要因のひとつに、人々の意識向上が挙げられます。また、平成12年に施行された児童虐待防止法も、大きな後押しとなりました。

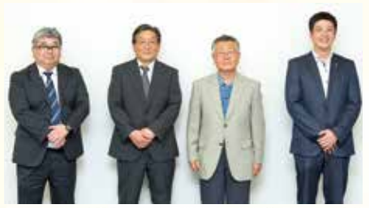
しかし、「これらの問題を根本から解決するには、社会全体で子どもを育てるという意識を皆さんに持っていただきたいのです」と松村さんは呼びかけます。

例えば、近所で小さな子どもを育てる母親を見かけたら、挨拶をするだけでも孤立感は緩和されます。積極的にひとり親家庭をサポートしたいと考えるのであれば、子ども食堂やフードパントリーのボランティアに参加するのも良いでしょう。孤立家庭を支えようという市民の意識改革こそが、児童虐待を未然に防ぐ第一歩なのだと皆、声をそろえます。

児童養護施設に入所した子どもは、家庭の受け入れ環境が整えば、自宅に帰れます。一方、家庭に戻れず、施設で暮らしていた子どもは高校卒業と同時に、施設を退所しなければなりません。頼れる親や、住む家、お金もない子どもたちにとって、競争社会を生き抜くのはとても困難です。

負の連鎖を防ぐため、児童養護施設で力を入れているのは、退所後の子どもたちをサポートする3年間のアフターケアと、進学率の向上です。「高校卒業後に専門学校や短大、大学に進学し、資格を取れば、安定した仕事と収入を得られ、負の連鎖が断ち切れます」と丑久保さん。ようやく3割程に向上した施設退所者の進学率を、もっと上げていきたいと意気込みます。

少子高齢化社会の今、子どもたちは未来を担う大切な宝物です。すべての子どもたちが安心して暮らせるために、私たちのできることを、考えてみませんか。



子どもを虐待から守るためには、早期発見、早期保護、早期対応こそが大切だと話す児童養護施設の皆さん

児童虐待かもと思ったら、すぐに連絡を！

児童相談所虐待対応ダイヤル

189（いち はや く）

子ども虐待防止オレンジリボン運動

※お住まいの地域の児童相談所につながります。
※通告・相談は匿名で行え、その内容に関する秘密は守られます。

フリモARアプリをダウンロード

App Store からダウンロード　Google Play で手に入れよう　で「フリモAR」を検索

※AppleおよびAppleロゴは米国その他で登録されたApple Inc. の商標です。
App Store®はApple Inc. のサービスマークです
※Google Play および Google Play ロゴは Google Inc. の商標です

文／佐藤京子　写真／篠原亨　デザイン／松浦亜樹